

## \*園長のひとりごと

皆様今年のお正月は、いかがお過ごしでしたでしょうか。

旭川周辺は、比較的穏やかな新年を迎えることが出来たのではないのでしょうか。長期予報にもあったように暖冬傾向の冬らしく。「ピリッ」としたシバレル日は来るものの、時折降る雪は水分を含んだ重めの雪が多く、雪かきの回数で疲れと言うよりは、雪の重さによる疲れが出そうです。

今年の「辰年」、どんな年になるのかとお酒の抜けない頭で考えていた元旦夕刻に、突然テレビから地震速報が流れ、石川県能登半島を震源とする震度7の地震の発生が報道され、矢継ぎ早に北海道から九州までの津波警報が発せられるなど、お正月気分を一変させた瞬間でした。

地震発生以降のお正月特番は全て地震の臨時ニュースに差し替えられ、年始に遊びに来た孫たちはちょっと不満気ではあったものの、被害に遭われた方々はお正月どころではなくなった瞬間だった事と思います。

今回被災した石川県金沢や穴水には先輩・友人もおり、更に新潟では昨年10月に私の主催するこども園団体の全国研修会を開催しており、大会でお世話になった方々も多くいらっしやったことから、それぞれの県の支部長さんに連絡させて頂いたりしておりました。

金沢の先生からは、能登半島全域で道路が寸断したため自衛隊のヘリコプターが頻繁に離発着している様子や、以前案内して頂いた輪島や珠洲の観光施設は壊滅的な被害である事お聞きし、新潟の先生からは敷地の液状化により園舎自体が傾いている様子などが伝えられて、震災被害の怖さを認識させられました。このお正月の時期だからこそ、家族バラバラにならずに良かった世帯もあれば、帰省中のご家族までも被害に遭ってしまった世帯も有ったりと、ある種運命を感じざるを得ない出来事のような気がします。

翌日の羽田空港での旅客機の衝突事故も、この震災とは無関係では無かった事などから、残り11カ月の辰年が何とか平穏であることを願うばかりです。

新型コロナ感染症も、感染症法上の分類が現在の危険度の高い「2類」相当から、季節性インフルエンザと同じ「5類」へ引き下げられてから、すでに半年以上経過しておりますが、ここに来て感染者増加が目立つようになってきました。インフルエンザ並と言う事で、重篤な症状を示すことは少ないにしても、感染力は強く、すぐに変異株が出現し治療薬は限られているなど、まだまだ恐れるに足る感染症であることは間違いないようです。

コロナ禍の3年間を皆さん守ったのは、手洗いうがいに手指消毒とマスクの着用だった筈です。今こそ万病の要策である「手洗い・うがいに消毒、必要な時にはマスク」を忘れずにお願いします。